

やんばる野生生物保護センタ「ウフギー自然館」活動報告



講演会「人と植物（野草）の関わり」



やんばる自然体験活動協議会（国頭村・大宜味村・東村・沖縄県・環境省で構成）主催、やんばる野生生物保護センター共催による講演会「人と植物（野草）の関わり」を平成23年1月30日（日、午後3時～午後5時）、講師に元辺土名高校理科実習教諭の島袋徳正氏を迎え、国頭村森林公園交流センターで開催しました。

講演会には国頭、大宜味、東村から21名が参加。

人間は古い時代から衣食住に植物を利用し、植物もまた人の暮らしと関わることによって生息地を広げてきました。島袋先生はスライド映像を見せながら、今、私達の生活環境の変化で里地、里山が利用されなくなり、その環境に適応して生育していた植物に大きな影響を与えているという事を話してくれました。人の手が加えられなくなって絶滅危惧種になったダイサギソウやカクチョウランの話はとても興味がありました。また、沖縄島に定着している帰化植物は500種以上あり、その内やんばるには200種以上が定着しており、今、沖縄在来の植物が危機的な状況にあると指摘されました。

最後に、植物たちにとって人の手が加えられなくなると絶滅する種もあり、自然保護の立場から言わせたら全く手づかずに自然を守ることだけが必ずしもいいことだとは言えないと、話を閉じました。参加者たちは島袋先生の話に熱心に耳を傾け質問をしたり、メモを取ったりしていました。

講演会の後、全員で交流センター周辺を歩きながら植物のミニ観察会も楽しみました。



ミニ観察会では希少種のヤナギニガナを見ることができました。

路傍の法面にたくさん生えていました。

人の手が加えられたことで、この場所で生き残ることができたのでしょうか…

ヤナギニガナは沖縄県、環境省レッドリストの絶滅危惧種Ⅱ類になっています。